

# Rubyの配布パッケージの変遷

Kazuhiro NISHIYAMA

株式会社Ruby開発

2026-05-22

# self.introduction

---

- 西山 和広
- github など: @znz
- Ruby のコミッター

# Rubyの配布パッケージとは？

---

- 今回の話では <https://cache.ruby-lang.org/pub/ruby/> で配布されている tar.gz などのアーカイブファイルのこと
- <https://www.ruby-lang.org/en/news/> でのアナウンスで正式リリース
  - アナウンス前にファイルが見えても変わる可能性あり
- 今は3形式
  - tar.gz
  - tar.xz
  - zip

# 最初は tar.gz だけ

---

- matz がリリースしていた頃からの慣習で昔は tar.gz のみ
- 2007-03-13 1.8.6 で tar.bz2 と zip が増えた
  - tar.bz2 : サイズが小さいので帯域節約のため
  - tar.gz, zip : 利便性のため
- 詳細は [ruby-dev:30562] あたりのスレッドを参照  
<https://blade.ruby-lang.org/ruby-dev/30562>

# tool/make-snapshot

---

- 2007-12-26 1.9.0-0 の前あたりからアーカイブ作成が tool/make-snapshot というスクリプト化

# 小ネタ

---

- zip の作成に 7z があれば優先して使うようにした
  - zip コマンドより 7z の方が圧縮率が良かったため

# tar.xz 対応追加

---

- IRC で tar.xz の方が小さいのであると良さそうという話が何度か出ていた
- ここで 1.8 非対応になりつつ xz 対応
  - 直接のきっかけのやりとりはみつからず

```
commit 944ff17f8a64092c80131afe2d0ce467b3cacce4
Author: Nobuyoshi Nakada <nobu@...>
Date:   Tue May 13 10:09:41 2014 +0000
```

```
make-snapshot: support xz
```

```
* tool/make-snapshot (package): support xz.  no longer runs with
  1.8 or earlier.
```

```
git-svn-id: svn+ssh://ci.ruby-lang.org/ruby/trunk@45934 b2dd03c8-39d4-4d8f-98ff-823fe69b080e
```

# tar.xz リリース

---

リリースパッケージとしては以下から

- 2014-09-19 2.0.0-p576 (from ruby\_2\_0\_0)
- 2014-09-19 2.1.3 (from ruby\_2\_1)
- 2014-10-27 1.9.3-p550 (from ruby\_1\_9\_3)

(ruby 2.2 は最初から)

(cache.ruby-lang.org は 2015-07-25 になってしまっていたので、  
日付は <https://gist.github.com/unak/3038095> から)

# tar.bz2 削除

---

- それぞれの形式の目的
  - tar.bz2, tar.xz : サイズが小さいので帯域節約のため
  - tar.gz, zip : 利便性のため
- bz2 より xz の方がサイズが小さく展開も速い
  - xz はまだ (当時) 標準でインストールされていない Linux 環境もあった
  - 互換性しか残す理由がない

## 3.0 から tar.bz2 なし

---

- How about stopping new \*.tar.bz2 releases?  
<https://bugs.ruby-lang.org/issues/16483>  
で提案して 2020-12-08 3.0.0-preview2 から tar.bz2 なし
  - preview1 には間に合わなかった

# bz2 削除対応

---

- <https://github.com/ruby/actions> のアーカイブ作成の GitHub Action での対応
  - バージョンをみて tar.bz2 を除外するオプションを tool/make-snapshot に指定
- <https://github.com/rbenv/ruby-build> などの外部への影響もあった

# 最近の追加対応

---

- アーカイブ作成の GitHub Action が <https://github.com/ruby/ruby> に移植された
  - tar.bz2 対応が残っていたが今は 3.3 以降のみサポートなので不要
  - 対応コードを削除

# まとめ

---

- Ruby のリリースアーカイブ形式
  - tar.gz のみ → tar.bz2, zip 追加 → tar.xz 追加 → tar.bz2 削除
- 追加は簡単
- 削除は大変
  - 関係者との調整
  - 影響範囲の考慮
- tar.zst (Zstandard) の追加はどうかなと思ったことがあるけど、削除の大変さを考えると気軽に追加提案はできなくなってしまった (圧縮率も xz を置き換えるほどではない)